

トラック1

【■正面 密着 有声音】

【クールで低めの声 抑揚なくダウナーな雰囲気】

【◇マイクテストをする感じ】

【ドスを利かせて一番低い声で】
あ。あ。

マイクと迷えるクソマゾの脳みそチェック中。

【■右耳 密着 有声音】

死ね、マゾ。

ふう〜♡(声を入れつつ冷たい吐息)

【■左耳 密着 無声音】

死〜ねっ。死〜ねっ。死ねっ。死ねっ。

はあ〜♡(温かい吐息)

【■正面 密着 有声音】

ん、こんなもんな。

はい、マイクチェックオッケー。

クソマゾの脳みそ終わってまーす。

【◇ここまで】

【■正面密着有声音から、■正面 10cmに移動しながら】

ガラスがあるから

お前の声は聞こえないけど、

とりあえず私の声は

そっちにちゃんと聞こえてるみたいだね…

死ねって言われて興奮してるキモイ顔で分かりましたー。

(溜息)はあ…

やっぱりまたクソマゾかあ…。

ま、仕方ないね。これも私達シスターのお仕事だし…。

決まりだからこの懺悔室のことを説明していくよ。

オナニーのし過ぎで脳細胞が死滅していて、

頭ん中にくっせえザーメンが詰まってる、

低能シコ猿マゾのお前にもわかるように…ね。

【■正面 密着 有声音に移動しながら】

ここでの懺悔っていうのは、

私の身体を見てシコって、

見抜きで射精することだよ。

知っていてこの懺悔室に来たんなら最低の変態マゾだけど…

ま、どっちにしろお前が、酷い言葉を浴びせられて興奮する
ゴミなことには変わり無いし、どっちでもいいか。

説明、続けるよ。

この懺悔室では、ここ。

目の前にガラスが張ってあるの。

私とお前の間を遮る、透明なガラス。

お前の声とか…あとは臭そうな匂いとかはこっちに届かないけど、
惨めな姿や見抜きでチンポコいてるところは、全部丸見えだから。

ん？

ああ、私の声ね。

さつきイヤホンか、ヘッドホンを付けてもらったよね。

それで私の声だけはそっちに届くようにしてるの。

お前今耳につけてるんだもん、

私のマイク越しの声が届くのは当たり前でしょ。

ふふっ…

そんなことより重要なのは…

【■右耳 密着 無声音】

(温かい吐息) はあゝ♡

私がお前の耳元で囁くことができるってこと。
んー？

…うわ、いまからだは今体跳ねてたでしょ。

私の吐息で…

【■左耳 密着 無声音】

(声を入れたっつ冷たい吐息) ふうゝゝ♡
ほらまた。

全部見えてるって言ったよね、お前の姿。

ま、体がすぐ反応することも想定通りだからいいけど…。

【■右耳 密着 無声音】

とにかく、お前の耳元で囁くのも私の自由自在なこと。
理解できた？

【■正面 密着 有声音】

：ああ、また興奮したキモい顔してるから伝わってるのは分かったよ。
女の子に耳元で囁かれると、
簡単にゾクゾクしちゃう変態なんだよね、お前は。

【■正面 5cmに移動しながら】

それじゃマイクとかの説明はこれで終わり。
それで、シスターである私の仕事は、
お前みたいなカスマゾにこの懺悔室で、
身体を見せつけたり言葉責めをしたりして
このガラスにぶっかけ射精をさせることなの。

【■正面 密着 有声音に移動しながら】

お前はオナニー中毒のゴミマゾのくせに…
女の子様に発情したことを懺悔しながら
無駄打ち射精して、
劣等マゾ遺伝子が詰まった精子を
廃棄しなきゃいけないの。
理解できた？

まあ理解してなくても、もう一々説明しないけど。
私としてはお前なんかのオカズにされて
キツモイ視線と興奮を向けられながら
シコられるとか…本気で最悪な気分だけど、
仕事だからきっちり射精させるね…

【■左耳 密着 有声音】

ああ…それと…

私にオナニーをずっと見てもらえと思わないでね。

お前が私の身体を見てみっともなく発情して、

ゴミザーメンを射精するだけだから。

「シコシコするところ見て〜♡」

「射精^でるところ見てて〜♡」

そんな願望が叶うと思わないように…

この仕事、途中でお前から目を外してもいいんだ。

飽きてきたら適当に出させるから。

お前みたいな男として終わってるマゾの

オナニーや射精を見せられて

嬉しい女性なんかいるわけないんだよ。

勘違いしないでね。

（嘲笑）ふふっ…

せいぜい私が退屈しないような、

無様で面白いマゾシコ姿を私に見せてみなよ…くすくすっ…

【■右耳 密着 有声音】

この懺悔室は、社会貢献のために見抜きを

させてあげてる場所なんだよ。

お前みたいな終わってるマゾが

何かの間違いで女性に手を出して

マゾの再生産をすることがないように、

こうやって精液の廃棄をさせてるの…。

そういうわけだから、

種が枯れるまで帰れると思わないで。